

平成26年度

シ ラ バ ス

桐生大学 医療保健学部

看護学科

平成23年度以降カリキュラム…【4年生】

平成26年度 シラバス

科目名	哲学・倫理学		担当者	村上 隆夫	学科	看護学科 栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	古代ギリシャのヘレニズム文化と古代ユダヤのヘレニズム文化を源流とするヨーロッパの哲学と倫理学を近代まで概観する。							
学習目的	ヘレニズムとヘブライズムの総合としてのキリスト教とともに発展してきたヨーロッパの哲学と倫理学について基本的な知識を獲得することを目的とする。							
到達目標	現代の哲学・倫理学的問題について論じている入門的な文献を読解できるようにすることを目標とする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	地中海とその文化	古代地中海世界におけるギリシャ人の文化とユダヤ人の文化について説明する。						
第2回	ギリシャ哲学の形成	ソクラテスの生涯とその哲学・倫理学について説明する。						
第3回	ギリシャ哲学の展開 (1)	プラトンの哲学・倫理学について説明する。						
第4回	ギリシャ哲学の展開 (2)	アリストテレスの哲学・倫理学について説明する。						
第5回	キリスト教の成立 (1)	イエスの生涯とその倫理思想について説明する。						
第6回	キリスト教の成立 (2)	パウロによるキリスト教の成立について説明する。						
第7回	キリスト教神学の形成	アウグスティヌスの神学について説明する。						
第8回	キリスト教神学の展開	普遍論争について説明する。						
第9回	宗教改革の思想	ルターとカルヴァンのキリスト教思想について説明する。						
第10回	近代哲学の形成 (1)	ホッブズの哲学・倫理学について説明する。						
第11回	近代哲学の形成 (2)	デカルトの哲学・倫理学について説明する。						
第12回	啓蒙主義の哲学	シャフツベリの倫理学とヒュームの哲学・倫理学について説明する。						
第13回	カントの哲学	カントの哲学について説明する。						
第14回	カントの倫理学	カントの倫理学について説明する。						
第15回	総括と展望	これまでの講義について補論を行い、さらに討論の時間を設ける。						
教科書	使用しない。講義の際にレジュメを配布する。							
参考書	講義のなかで適宜指示する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%評価とする。							
授業時間外の学習	授業後に1時間程度の資料検索を行うことが望ましい。							
履修のポイント	レジュメについてさらにノートを用いて補足してまとめることが望ましい。							
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	国際文化論		担当者	小島 弘一	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4 学年	曜日	
			(時間)	30時間			時限	
授業の概要	この地球上に65億の人類が生活しています。1万人以上が話す言語は約500種あります。言語が変われば、文化も変わります。文化とは、心の働きです。本講座は、ある種の旅行案内です。個人旅行で訪問した約150ヶ国の歴史と文化をVTRや写真を使用して紹介します。未知の国や、現在ではとてもうかがい知ることが出来ない国々や、食文化の歴史や、その発達までのいきさつ、青の味わいまで紹介して、文化がどの様に伝播し、どの様に変化したかを学びます。							
学習目的	国際的となっている現代、我々は多くの異文化の人々との交流が行われます。異文化を知ることで、不要な摩擦を避ける事も必要です。どの様にして人々が文化を獲得したかを学び、無用な摩擦を防げます。医療の現場にあっても、異文化を学び、患者の要望を知ることは大切です。医療と密接に関係している食文化も同様です。国際的な人間関係構築の上での最低要因である。							
学習目標	食品衛生法の精神を涵養し、プロの調理人として、又、プロの教育者としての資質を磨く事を目標にします。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	文化とは	どの様にして人類は文化を獲得したか。						
第2回	4大文明と日本	文化発祥の地、エジプト・メソポタミア・インダス河・黄河文明						
第3回	エジプト	クレタ文明とミノア文明 ギリシャ神話とトロイ戦争						
第4回	サン・トリーニ	ハインリッヒ・シュリーマンの執念						
第5回	旧約聖書	パレスチナの歴史とシナイ半島						
第6回	3大宗教	ユダヤ教・キリスト教とイスラム教						
第7回	イスラム教	食文化と戒律						
第8回	ルネッサンス	メチチ家とフロレンス						
第9回	イタリー	ベネチアからシシリー島まで						
第10回	フランス	パリーが何故芸術の都と言われるのか						
第11回	イギリス	イギリス出文学が盛んになったのはなぜか						
第12回	アメリカ	サン・フランシスコからニューヨークまで						
第13回	文化人類学	人間の体系はどのようにして変化したか						
第14回	文化の獲得	ギリシャ神話に隠された謎						
第15回	総括	言葉を覚えて外国に行こう						
教科書								
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%							
履修のポイント	楽しく講義に参加すること							
オフィス・アワー	登校日の午後2時まで							

平成26年度 シラバス

科目名	環境論		担当者	橋爪博幸	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4 学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	今、この地球で問題となっている種々の環境問題を取りあげて講義する。							
学習目的	これからますますクローズアップされてくる地球環境問題について、すこしでも地球環境の現状への興味をかきたて、これから社会にでたあとでも環境に配慮した生活ができるようにする。							
到達目標	社会に出たあとまで地球環境問題に関心を持ち、さまざまな環境保全活動に積極的に参加できる人材を育てる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	大気汚染(1)		中国から日本へ渡ってくるの大気汚染物質について知る。大気汚染の原因となる物質について理解する。					
第2回	大気汚染(2)		過去に起こった大気汚染による公害問題を知る。また、これに関連して、大気汚染についてどんな法律があるのかを見ていく。					
第3回	原子力発電所からの放射能汚染(環境被害)		2011年3月の東日本大震災では多くの人命が失われ、同時に福島原子力発電所の事故で放射能汚染が広がった。どのような環境汚染がひろがったか、その概略をみていく。					
第4回	放射能の被害について(人体への被害)		放射能や放射性物質について知り、大気、水(海)、土壌の放射能汚染、そして私たちの健康への影響について情報を整理し、同時にエネルギー問題について考える。					
第5回	地球温暖化と京都議定書		地球の温暖化のしくみを理解し、京都議定書の内容をつかむ。					
第6回	温暖化進行後の地球の予測		IPCCの報告書を読み、これからの地球でどのようなことが起こると予想されているのかをつかむ。					
第7回	生態系		生態系という概念を理解する。					
第8回	日本列島の自然環境		日本列島の自然環境について見ていく。					
第9回	廃棄物問題(1)		増え続けるゴミの問題について各自、解決策を探る。					
第10回	廃棄物問題(2)		廃棄物に関する法律にはどのような決まりがあるのか理解する。					
第11回	エネルギー問題		電気やガス、ガソリンといったエネルギー源の消費推移等を知る。電気料金の計算方法を学ぶ。					
第12回	エコロジカルフットプリント		エコロジカルフットプリントという概念を知る。同時に世界における貧困の現状、不平等や格差があることを知る。					
第13回	世界の不平等と環境破壊		貧困や不平等が、世界規模の環境破壊、生態系の喪失を招いていることを理解する。					
第14回	土壌の汚染		工業立地等における土壌汚染について見ていく。					
第15回	水質汚染		海や河川における汚れについて現状をつかむ。世界における水不足についても触れる。					
教科書	岡本博司『環境科学の基礎』第2版(東京電気大学出版局)							
参考書	必要なとき、講義中に提示する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題の提出(20%)、期末試験(80%)をもとに総合的に評価する。							
授業時間外の学習	環境問題に関するニュースや新聞記事等を読み理解しておくことが事前学習につながる。復習として配布プリント等を熟読し、ポイントをまとめておくことを勧める。							
履修のポイント	休まず出席すること。レポート課題をかならず提出すること。							
オフィス・アワー	水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーとする。学生課または9号館3階の第10研究室に来ること。							

平成26年度 シラバス

科目名	生活とデザイン		担当者	松村誠一	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4 学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	<p>現代社会の中で生きている私たちは、多くの優れたデザインに囲まれて生活しており、そこから大きな影響を受けています。文明や文化が開化する以前から、デザインと私たちの生活には密接な関係があり、近代になりグラフィックデザインやインダストリアルデザイン等の分野が確立されました。この授業では、私たちの生活とデザインの関係について考察していきます。 ※本授業では課題提出等により成績評価を行い、定期試験は実施しない。</p>							
学習目的	<p>日常生活の中に普通に存在している「デザイン」について、その意味や歴史、価値、可能性等を多角的に学んでいき理解を深めることを目的とする。</p>							
到達目標	<p>デザインの意味や価値、可能性をその歴史から考察し、デザインと人間との関係について理解を深めより良い社会生活が営まれることを目標とする。</p>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	デザインを理解するために						
第2回	デザインの歴史	イギリスの伝統と革新						
第3回	デザインの歴史	アール・ヌーヴォーの世界						
第4回	デザインの歴史	ウィーンの風土、市民生活のグラフィックデザイン						
第5回	デザインの歴史	バウハウスーデザインの実験と総合ー						
第6回	デザインの歴史	オランダの近代運動、ロシアのユートピア						
第7回	デザインの歴史	アメリカのインダストリアルデザイン						
第8回	デザインの歴史	現代のデザイン						
第9回	デザインと人間工学	人体寸法と設計						
第10回	デザインと人間工学	家具、設備への応用（座る）						
第11回	デザインと人間工学	家具、設備への応用（寝る）						
第12回	デザインと人間工学	家具、設備への応用（立つ）						
第13回	デザインと人間工学	形・色・テクスチャーの心理						
第14回	デザインと人間工学	錯視効果						
第15回	デザインと人間工学	空間の心理						
教科書	使用しない。							
参考書	使用しない。							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題100%評価							
授業時間外の学習	「予習内容」情報収集を行い自分の考えをまとめる。「復習内容」ノートの整理、確認を行う。							
履修のポイント	ノート提出を求める場合があり、授業態度や出席状況等も重要視する。							
オフィス・アワー	111 研究室で随時行う。							

平成26年度 シラバス

科目名	地域社会学		担当者	篠原貴子	学科	看護学科・栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	近代社会は、社会構造や生活様式に大きな変化をもたらした。特に、農村から都市への人口流出や都市化は、コミュニティや個人を取り巻く環境を転換させた。本講義では、都市や農村に関する社会学の展開を中心に学ぶとともに、社会を構成する主要な組織が担う役割や課題を経済や文化の側面から把握する。							
学習目的	地域社会学の歴史や課題を理解し、社会的思考を身に付ける。							
到達目標	講義内容を踏まえて、地域社会が抱える現代的課題を発見し、読み解く力を培う。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	イントロダクション	地域社会学の意義と課題						
第2回	都市社会学の系譜	都市社会学の展開						
第3回	流動型社会論	近代化論						
第4回	現代の都市社会	都市空間と人間形成						
第5回	現代の農村社会	高度経済成長と農村社会						
第6回	地域権力構造論	地域と政治						
第7回	アーバンイズムとコミュニティ	町内会の変遷と課題						
第8回	アーバンイズムとローカルティ	東京の都市空間						
第9回	グローバル社会	グローバル化と地域社会の変貌						
第10回	エスニック・コミュニティ	エスニック・コミュニティの形成						
第11回	社会変動と地域社会の形成	住民生活と行政						
第12回	農山村の混住化社会	現代の農村社会						
第13回	地域社会の活性化	地域の復興と観光						
第14回	コミュニティ形成の課題	新たなコミュニティの創出と地域社会						
第15回	まとめ	地域社会学の展望						
教科書	必要な資料は随時配布							
参考書	鈴木広監修 『地域社会学の現在』 (ミネルヴァ書房)							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。							
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	生命科学		担当者	小林	学科	栄養・看護(共通)	開講期	前期
区分	専門基礎科目	選択	単位	1	学年	4	曜日	
			(時間)	15時間			時限	
授業の概要	生をうけて死に至るまで続けられる生命の営みを科学の眼でみつめ理解する。この数十年で生命科学は飛躍的に発展し、生命の持つ高度で複雑なシステムの一部が理解されるようになった。バクテリアからヒトまでに共通して存在する生命の原理と、今日まで営々と生命が受け継がれてきた方法を知るとともに、ヒトとしての生命をよりよく生かすために最新の科学技術がどのように用いられ、今後どのような進歩が期待されるのかを考える。							
学習目的	ニュースで流れる生命科学の内容を理解し、現代の医療へのかかわりを理解する。生命科学という観点から、生化学をもう一度見直し、生化学の基礎も学習する。							
到達目標	管理栄養士国家試験では、人体と構造と機能及び疾患の成り立ちの分野に生化学は含まれる。生化学は基礎栄養学・応用栄養学などの分野の理解にも必要であり、これらの科目にも生化学の問題は含まれる。生化学I・IIを基礎に、めざましく進展する分子生物学・細胞生物学の内容も理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	細胞内情報伝達	ホルモン及びその関連物質						
第2回	器官の生化学	腎臓・肝臓の生化学						
第3回	器官の生化学	筋肉、脂肪組織の生化学						
第4回	器官の生化学	脳の生化学						
第5回	遺伝の生化学	遺伝子の生化学						
第6回	遺伝の生化学	遺伝子操作法						
第7回	細胞増殖の生化学	細胞増殖、死の調節						
第8回	まとめ	各臓器の生化学反応を総合的にまとめる。						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	シンプル生化学 サイエンスビュー生物総合資料							
参考書	分子栄養学							
成績評価	単位認定 60 点以上 時間内のテスト・レポートにより評価							
授業時間外の学習	授業でおこなった範囲を復習する。次の授業時間で問題を解き、学習の理解度を確認する。							
履修のポイント	管理栄養士国家試験問題過去問題を中心に解き、生化学 I・II を理解すると共に、進展する分子生物学・細胞生物学を理解につなげる。理解度により補講を行い、また、シラバスを変更する。							
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	行動科学		担当者	徐 淑子	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	選択	単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年	4学年	曜日 時限	
授業の概要	この授業では、人々が健康を守る行動を起こすときにどんな心理社会的仕組みが働いているのかについて、学びます。また、それらの知識を健康教育や患者教育にどのように応用できるのかについて、考えます。まずは、じぶん自身の行動をモデルに当てはめて考えてみることから学習を始めましょう。							
学習目的	保健行動についての知識を、保健医療の現場で生かすための、基礎をつくることを目的とします。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康と病気」をめぐる行動のさまざまなすがたについて、理解を深める 2. 行動モデルを用いて、身近な健康現象を理解・説明することができるようになる 3. 健康教育・患者教育の枠組みと構成要素を理解する。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	保健行動の多様性 1	健康と病気にかかわるさまざまな行動を、いくつかの視点で分類しながら理解する。看護職者がとりあつかうケア範囲の広さを確認する。						
第2回	保健行動の多様性 2	生活構造論、段階的変化学論について取り上げ、保健行動がどのようにして個人の生活の中に組み込まれていくのかについて考える。						
第3回	保健行動の生起とその習慣化	保健行動を説明する代表的な行動モデルについて学習する（教育モデル、恐怖アピールモデル、保健信念モデル、保健行動シーソーモデル）。そして、社会的学習理論（自己効力感モデル）の考え方や、行動変容の過程について考える。						
第4回								
第5回	健康教育・患者教育の構成	健康教育・患者教育の目的と種類、目標設定、目的に合った教育手段の選択、ユニット・セッションの構成について、取り上げる。						
第6回	神健康が保健行動に与える影	生活ストレス論の立場から、「なぜ、かんたんな保健行動も起こせない／続かない人があるのか」について、考える。						
第7回	行動科学的な知見の応用 1 (生活習慣指導への応用)	行動科学的知見を、生活習慣指導における個別支援にどのように活用できるか、事例に学びながら理解を得る。						
第8回	行動科学的な知見の応用 2 (生活習慣指導への応用)	①認知行動療法の基本的な考え方 ②認知行動療法の考え方を援助内容にとり入れる						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	指定教科書はありません。教員が資料を配布します。							
参考書	授業中に、その都度、情報の出典を示し、書籍や文献を紹介さしあげます。							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題提出80%以上で評価							
授業時間外の学習	授業中に個別ワークにとりくんでもらいます。基本方針としては、授業内で学習に要する作業を完結できるように計							
履修のポイント	視聴覚資料を毎回視聴します。受講者が少ない場合は対話形式で授業を進めます。							
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	合同臨地実習		担当者	中山優子・加固正子他	学科	看護学科 栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(45時間)			時限	
授業の概要	専攻が異なる栄養学科・看護学科の学生が互いの交流を通して連帯感を培い、チームで様々な保健・医療・福祉・地域の現場において、問題発見方学習活動を体験し、体験後全体報告会と討論会を開催する。							
学習目的	専攻の異なる学生間に相互理解や認識の共有を促進し、保健医療分野の「連携と協働」に対する理解を深める。また、チーム医療の実際を通じて、今後のチーム医療の在り方を考える。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職連携の実践に必要な多職種とのコミュニケーション能力を適用する 2. 保健医療福祉サービスのかかわる職種や役割とそれを支える制度について理解する 3. 個人・集団・地域の健康上の問題を解決するための保健医療福祉チームの連携・協働の実際を知る 4. 対象者中心の保健医療福祉サービスをチームとして提供し、専門職として連携することの必要性および重要性を理解する 5. 保健医療福祉チームの連携・協働を推進する方法と課題をあげる 							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	オリエンテーション		グループ作り					
第2回			臨地実習にむけての事前学習					
第3回			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 詳細については、配布する「合同臨地実習要項」に記載してあります </div>					
第4回								
第5回	グループワーク							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回			病院、福祉施設、保健行政機関等での臨地実習					
第12回	臨地実習							
第13回								
第14回	発表準備		学内合同報告会の準備、報告書作成					
第15回	学内合同報告会		実習で学んだことを全グループが発表する					
教科書	指定なし							
参考書	鷹野和美編著：チーム医療論、医歯薬出版株式会社（3年次の「チーム医療論」で使用した教科書）							
成績評価	単位認定 60 点以上 臨地実習への出席が原則							
授業時間外の学習	実習施設やグループで決めたチーム医療の特徴についての情報収集、個人に分担された事項についての整理を自主的に							
履修のポイント	グループワークと臨地実習、報告会で構成されており、実習前の学習が重要になります。また、学生同士のチームワークをいかに円滑に行うかについて、客観的に考察しながらグループワークを行うようにしましょう。							
オフィス・アワー	各グループの担当教員と相談して決定する。							

平成26年度 シラバス

科目名	社会保障論		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	看護学科教育課程において「社会保障制度と生活者の健康」の中でも「社会保障の理念と基本的な制度の考え方」を理解するのがこのコースである。ここでは、疾病・高齢・要介護・失業などの危機に対応する医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険などの公的保険制度と理念、さらには生活保護、障害者福祉、児童福祉、老人福祉などの社会福祉諸法の制度と理念が、福祉・医療制度の中で、また私たちの生活の中でどのような機能を果たしているかを考えていく。このコースでは、看護職として不可欠な知識を得るだけでなく、生活者として知っておくべきことについても学習していく。							
学習目的	医療保健職として必要な社会保障の理念と社会保障の基本的制度の考え方等を理解する。							
到達目標	現在の社会保障制度の枠組み、現実の社会保障に関するしくみを理解する。社会保障制度に対する、医療保健職としての役割・責務・倫理等を理解する。							
授業計画								
回	主題	授業内容						備考
第1回	社会保障制度と社会福祉 社会福祉の歴史	社会保障の概念・目的について理解した後、社会保障の概要・法制度について学習する。また、現在までの社会福祉の歴史について、いくつかの段階に分けて、その概要を学習する。						
第2回	現代社会の変化と社会保障・ 社会福祉の動向	現代の社会保障を取り巻く環境の変化について学習し、それに対する社会福祉政策の近年の動向と社会福祉の現状について学習する。						
第3回	医療保障	わが国の医療制度の沿革・特徴について学習し、また医療保険の種類を正しく理解する。それぞれの医療保険の特徴・内容を知り、また高齢者医療制度について学習する。						
第4回	介護保障	介護保険制度が創設された背景と現在までの沿革を学習する。また、介護保険制度の概要やしきみ、現状について学習し、さらに課題について学習する。						
第5回	所得保障	所得保障制度の概要について学習する。具体的な所得保障制度の中心である年金保険制度について沿革・具体的内容及び課題を学習した後、各種社会手当、労働保険制度のしくみ・内容について概観する。						
第6回	公的扶助	社会保障制度における公的扶助の位置づけを理解し、生活保護制度を中心にその概要と具体的内容を学習する。公的扶助の現代の課題と生活保護以外の低所得層対策について学習する。						
第7回	社会福祉の分野とサービス	対象者別の社会福祉サービスについて学習する。高齢者・障害者・児童家庭に対する福祉の概要と具体的内容について理解し、またそれらの福祉分野において、近年特に問題となっている課題について学習する。						
第8回	社会福祉実践と医療・看護	社会福祉の援助技術についてその概要を知り、また社会福祉援助者と他の保健医療職者との連携・協働について学習する。						
教科書	福田素生・他著『《系統看護学講座 専門基礎分野》 健康支援と社会保障制度 [3] 社会福祉』(医学書院)							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 平常点 [20%]、期末試験 [80%] を総合して評価。							
授業時間外の学習	次回の授業について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、確認テストの解答をよく読み、間違った問題に関する該当部分を教科書・ハンドアウト等で復習しておく。							
履修のポイント	社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。							
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時(授業時間以外)、9号館3階第9研究室							

平成26年度 シラバス

科目名	医療関係法規		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	<p>本講座は、「社会保障制度と生活者の健康」の一分野として位置づけられる「関係法規」に関する講座である。医療に関する法規としては、すでにさまざまなものが存在しているが、毎年さらに多くの法規が誕生し、また改廃されている。医療従事者にとっては、それらの法規に従い、医療を提供する義務を有するものであるから、関係法規への知識は、医療従事者にとって、不可欠な要素である。本講座では、医療、保健衛生、社会福祉などに関連する具体的な法規について学習するだけでなく、患者の人権や医療過誤等に関する現代的問題についても、学習していく予定である。</p>							
学習目的	医療を提供する基本理念、医療提供体制の基礎について、実体的に理解する。							
到達目標	医療従事者として知っておくべき基本的ルールや、保健医療の各分野の制度について、基本原則を理解した上で、それと関連づけて具体的なルールを理解する。							
授業計画								
回	主題	授業内容						備考
第1回	法規の概念	授業の進め方、看護士国家試験におけるこの教科目の位置づけについて説明した後、法規とその種類について、法学の基礎的知識を学習する。そして、衛生法規とは具体的に何を指すのか、それに基づき厚生行政はどのように実施されているかを学習する。						
第2回	医事法(1)	医療を行う人に関する法規のうち、看護業務に関わりの深い医療従事者に関する法規について、その目的と主な規定内容について、学習する。具体的には、保健師助産師看護師法、医師法、看護師人材確保法等を学習する。						
第3回	医事法(2)	主に医療を行う場・環境に関して規定している医療法について、その目的、具体的内容を学習する。特に、医療の目的、医療者の責務、医療機関、医療計画等、重要なことから中心に学習する。また、医療に関して規定しているその他の法規(臓器移植法、他)についても学習する。						
第4回	保健衛生法(1)	保健に関する全般的な行政施策・担当組織等を規定している地域保健法と健康増進法について、その目的・主な内容等を学習した後、個別分野の保健方針・行政施策等を規定している各種保健法のうち、精神保健福祉法について学習する。						
第5回	保健衛生法(2)	保健に関して個別分野ごとに保健方針・行政施策等を規定している各種保健法のうち、母子保健法・母体保護法、学校保健安全法について、その目的、主な行政施策の内容等を学習する。さらに具体的な保健対策法のうち、近年の大きな課税となっているがん対策基本法、自殺対策基本法等について、学習する。						
第6回	保健衛生法(3)	保健衛生に関する法の中でも、感染症に関する法について学習する。具体的には、感染症予防法・予防接種法・検疫法について、その目的・沿革・とりうる行政施策等について学習する。また、						
第7回	薬務法	薬務法規と薬剤等を扱う人に関する法を学習する。医薬品等に関する一般法である薬事法について学習し、さらに薬剤を主に扱う医療専門職に関する薬剤師法を学習する。また、さらに取り扱いに注意すべき薬剤・毒物等に関する法令を取り上げ、医療従事者の役割と規制内容について学習する。						
第8回	労働法	労働者に関する法規である労働法のうち、働く人たちの健康を守る立場である医療従事者として知っておく必要のある法令の内容について学習する。労働基準法、労働安全衛生法に加えて、特に働く女性の保護を規定している男女雇用機会均等法、育児休業・介護休業法について学習する。						
第9回	環境衛生法 環境法	日常生活を取り巻く環境に関する法令について、特に水とゴミに関する法令を中心に学習する。さらに環境保全に関する法令について、環境基本法をはじめ、個別の公害防止法、さらには環境に関する主な条約についても学習する。						
第10回	社会保険法(1)	前期の「社会保障論」の授業で学習した「医療保障」「所得保障」に係る社会保険法について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。医療保険に関するいくつかの法規と年金に関する法規等を中心に学習する。						
第11回	社会保険法(2)	前期の「社会保障論」の授業で学習した「介護保障」に係る社会保険法について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。介護保険に関する規定を中心に学習する。						
第12回	福祉法	前期の「社会保障論」の授業で学習した「公的扶助」「社会福祉の分野とサービス」について、再度重要な部分を確認し、また補足説明をする。分野ごとに学習したことがらを法規別に学習していく。						
第13回	患者・高齢者の人権保障 社会基盤整備等	患者や高齢者の権利を守るための各種制度について学習する。生命や健康に関する権利の基礎となる自己決定権を学習した後、権利擁護の具体的な施策である成年後見制度や地域福祉権利擁護事業、各虐待防止法等について学習する。また、少子・高齢化対策に関する法、情報保護に関する法についても学習する。						
第14回	医療保健福祉行政課題への対策	近年の医療保健福祉行政に関する課題への行政対応について、学習する。具体的には、難病対策、少子化対策、高齢化対策、生活習慣病対策のための具体的な施策・計画について学習する。						
第15回	全体のまとめ	これまで学習したことがらについて、課題演習を行って、理解度を確認し、不足している部分について、補足説明をする。						
教科書	『系統看護学講座専門基礎10 社会保障制度と生活者の健康 [4] 看護関係法令』森山幹夫・小島喜夫(医学書院)							
参考書	『看護六法(平成26年版)』看護行政研究会【編】(新日本法規出版) 『別冊ジュリスト・医療過誤判例百選(第2版)』唄孝一(有斐閣)							
成績評価	単位認定 60 点以上 平常点 [20%]、期末試験 [80%] を総合して評価。							
授業時間外の学習	次回の授業についての部分の教科書を読んでおくこと。授業終了後は、確認テストの解答をよく読み、間違った問題に関する該当部分を教科書・ハンドアウト等で復習しておく。							
履修のポイント	社会保障・社会福祉関連の資料を多数配布するので、整理しておくこと。							
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時(授業時間以外)、9号館3階第9研究室							

平成26年度 シラバス

科目名	国際保健論		担当者	芝山江美子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	世界の保健医療問題を概説し、その解決のために世界中が取り組んでいる方法を紹介する。							
学習目的	世界の保健医療問題とその解決に向けた国際協力の現状と展望を理解する。国際保健医療協力の専門家に必要な知識・技術・その取得方法を理解する。							
到達目標	1. 途上国の現状を知る。2. 世界の健康問題を理解する。2. 世界の健康問題を解決するための動きを知る。3. 問題解決手法を知る。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	国際保健概論	国際保健と国際保健上の問題を解決する手段である国際協力について概要を知る						
第2回	米国の医療保険	米国の医療保健の現状と歴史、日本の医療保健との比較						
第3回	国際協力の現状	国際協力及び保健医療分野の国際機関、NGOについて知る						
第4回	日本の国際保健医療協力	日本の政府機関、NGOが行っている国際協力について知る						
第5回	母子保健に関する問題	途上国の妊産婦死亡や乳幼児死亡の現状とそれらもたらす要因について考える						
第6回	途上国の現状 1	インドネシアにおける保健医療の現状と課題						
第7回	途上国の現状 2	ベトナムにおける保健医療の現状と課題						
第8回	母子健康手帳に関する協力	インドネシアでの実際の協力活動に関する話を聞き、母子保健上の問題の解決策について考える						
第9回	途上国の現状 3	ネパールにおける保健医療の現状と課題						
第10回	途上国の現状 4	中国における保健医療の現状と課題						
第11回	在日外国人	在日外国人の保健医療問題とチーム医療						
第12回	国際貢献のためのナースの海外留学	保健医療分野でのグローバル人材となるための海外留学の知識						
第13回	感染症対策	途上国だけでなく先進国でも大きな問題となっている再興感染症、新興感染症とその対策について学ぶ						
第14回	災害	世界中で頻発する災害および災害により生じる難民や避難民への対策について学ぶ						
第15回	まとめ	まとめ						
教科書	国際保健医療論・国際看護論、ネパール王国・インドネシア国地域保健活動、Filedwork for elderly people in Bunaken Island, North Sulawesi, Indonesia							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上							
授業時間外の学習								
履修のポイント	国際社会への関心を常にもって、新聞やニュースを通して世界情勢を把握し授業に参加すること							
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	ヘルスカウンセリング		担当者	齊藤敦子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	健康に関する悩みや問題を抱えている人の心理について理解を深めるとともに、カウンセリングの基本的な理論と技法を学び、実際に援助を必要としている人に対して健康増進を目的とした援助に関わるように学習する							
学習目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念について理解を深め、健康上の問題に直面している患者の心理状態を理解する 2. 患者の健康上の問題に関する原因や治療方針を理解し、カウンセリングの理論に基づいて援助の方法を学習する 3. 実際に患者が必要としている援助が提供できるように、効果的な関わり方について理解する 							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長発達段階を理解した上で、個人的な背景に基づいた健康の定義を考えることができる 2. 病気に直面している人の身体的・心理的・社会的な問題を総合的に理解し説明できる 3. 患者の抱えている問題の改善を目指して、カウンセリング理論や技法を活用できる 4. 疾患について適切な援助方法を選択し、健康増進・疾病予防などの具体的な関わり方を考察することができる 							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	成長発達段階と健康観	人間の成長発達段階と健康のあり方						
第2回	ヘルスカウンセリングとは	カウンセリングの役割：健康教育に伴う健康の増進及び予防						
第3回	人の心理とそれに伴う問題点	不適応状態によって生じるさまざまな身体的・心理的な問題						
第4回	心理的な危機状態とその行動	危機状態に直面した際の心理的変化とそれに伴う行動						
第5回	マイクロスキル・モデル	マイクロスキル・モデルの紹介とその実際						
第6回	カウンセラーに求められる資質	自己成長及び自己管理、倫理に関する原則など						
第7回	カウンセリング技法について	傾聴・要約技法・質問技法など						
第8回	カウンセリング技法の実際	ロールプレイによるカウンセリングの演習						
第9回	カウンセリング理論 (1)	クライアント中心療法						
第10回	自己理解・問題解決の対策 (1)	クライアント中心療法に基づいた問題解決へのアプローチ						
第11回	カウンセリング理論 (2)	行動療法						
第12回	自己理解・問題解決の対策 (2)	行動療法に基づいた問題解決へのアプローチ					テスト (1～11回)	
第13回	疾患に基づく患者の症例検討	疾患について症状・診断基準及び治療など						
第14回	疾患に基づく患者の症例検討	患者に対する個別的な援助方法について						
第15回	疾病に基づいた援助計画	健康促進及び健康教育・予防に関するアプローチプラン					課題レポート提出	
教科書	クラス内において必要な資料を配付							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 小テスト40点、レポート60点とする 単位認定は総合得点が60点以上とする							
授業時間外の学習	課題レポートの作成に向けて、疾患の学習及び症例を通して健康促進・健康教育について調査する							
履修のポイント	患者の疾病を理解し患者の気持を受容した上で、効果的な援助が実践できるように学んでもらいたい							
オフィス・アワー	在室時は随時対応します (10号館 研究室9)							

平成26年度 シラバス

科目名	家族看護論		担当者	鈴木裕子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	看護の対象は個人・家族・集団である。環境との相互関係の中で統合的・全体的にとらえる。家族を単位としてとらえることは概念的な理解の広がり进行を伴う。個人の背景として家族をとらえるのではなく、家族単位でとらえ看護課程を展開することを学ぶ。							
学習目的	家族看護の基礎理論や支援方法を学び、家族単位で対象をとらえ、支援する方法を学ぶ。							
到達目標	家族の形態や社会的な変遷、家族看護の変遷について理解する。 家族を単位として、また環境との相互関係の中で統合的・全体的にとらえ、対象理解を深める。 家族看護の代表的なアセスメントモデルを知り理解を深める。 家族像について理解し、イメージすることができる。 家族を対象とした看護課程の展開について理解を深める。 家族支援方法の知識と理解を深め、実践的に学ぶ。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	家族看護論を学ぶために	家族看護学の発展と動向						
第2回	家族看護の対象理解	家族の発達段階と家族システム						
第3回	家族看護の基礎理論	代表的なアセスメントモデル						
第4回	家族看護の実際	家族像の形成と看護課程の展開						
第5回	家族看護の事例1	家族看護事例検討と討議1						
第6回	家族看護の事例2	家族看護事例検討と討議2						
第7回	家族看護の事例3	家族看護事例検討と討議3						
第8回	総括	まとめと展望						
教科書	山崎あけみ、原礼子 看護学テキストNice 家族看護学 19の臨床場面と8つの実践例から考える 南江堂							
参考書	鈴木和子 家族看護学：理論と実践 日本家族看護協会出版会 森岡清美・望月崇 新しい家族社会学 培風館							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験70%，リアクションペーパー20%，授業態度10%							
授業時間外の学習	日頃から新聞やニュースに関心を持ち、現代家族の置かれた状況を知り考えを深める。							
履修のポイント	自分の家族や実習で出会った家族など身近なところから、また事例を通して実践的に学びを深める。							
オフィス・アワー	アポイントをとること。							

平成26年度 シラバス

科目名	クリティカルケア論		担当者	大橋香織		学科	看護学科		開講期	前期	
区分	専門基礎科目	選択	単位 (時間)	1単位 (15時間)		学年	4学年		曜日		
	教職科目	(必修)					時限				
授業の概要	1. クリティカルケアにおける看護師の役割 2. クリティカルケア領域に必要な病態と看護の知識（呼吸・循環管理と周術期管理等） 3. 患者・家族を含めた看護の必要性を実際（臨床事例を交えて） 4. クリティカルケア看護の演習（事例を通して看護展開を考える）										
学習目的	クリティカルケア看護の目的とそれに携わる看護師が果たすべき役割を学ぶ										
到達目標	1. クリティカルケアにおける看護師の役割が理解できる。 2. クリティカルケアの実際が理解できる。（重篤な患者の病態と看護の実際） 3. 事例を通してクリティカルケア看護が展開できる。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容						備 考		
第1回	クリティカルケアとは		クリティカルケアとは何かを看護の視点から考える								
第2回	クリティカルケアに携わる看護師の役割と求められる能力		クリティカルケア領域に働く看護師に必要な能力 集中ケア認定看護師の役割								
第3回	呼吸不全と看護		呼吸不全の状態と看護の実際、人工呼吸管理と看護の実際								
第4回	循環不全・代謝不全と看護		循環不全・代謝不全の状態と治療、看護の実際								
第5回	周手術期看護		大手術を受ける患者の看護（術前から術後まで）								
第6回	クリティカルケアにおける家族看護		重篤な状態にある患者の家族への対応と看護								
第7回	事例検討		臓器不全、周術期患者の事例を使った看護過程の展開（GW）						2回を使って完成		
第8回	事例検討		臓器不全、周術期患者の事例を使った看護過程の展開（GW）								
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
教科書	特に必要なし										
参考書	クリティカルケアに関連する図書、看護か知恵の展開に関する図書を自由に使用										
成績評価	単位認定 60 点以上 事例のまとめ 50% 課題レポート 50%										
授業時間外の学習											
履修のポイント	事例を通して、講義内容の復習とクリティカルケア領域の患者に対する看護過程の展開ができることを重視する。										
オフィス・アワー											

平成26年度 シラバス

科目名	学校保健Ⅱ		担当者	青柳 千春	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	4年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	学校保健は、児童生徒の健康と安全の基礎を培い生涯の健康増進の基盤を作る目的と意義がある。学校保健Ⅰの理解に立って、保健管理における支援の実際を演習したり、保健教育による介入について理論と実践を教育課程の新学習指導要領により学習すしたりする。							
学習目的	学校における児童生徒等、教職員の保持増進を図るため、保健管理、安全管理、保健教育、安全教育、組織活動の進め方を校種別発達段階別に合わせて現代的課題を設定してPDCAサイクルについて実践的に解決できるように具体的に試みる。							
到達目標	①児童生徒等の心身の健康実態及び環境アセスメントからの情報を収集して課題を明確にすることができる。 ②現代的な健康課題について取り上げ、学校における保健教育の進め方を具体的に考えることができる。 ③学校感染症への対応を理解することができる							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	健康観察・保健指導	健康観察の意義、方法および問題への対応						
第2回	児童生徒の健康実態の把握と保健指導	健康観察、健康情報の収集方法、学校保健統計、全国保健室利用状況調査、各種統計調査資料、保健調査に基づく実態把握の見方考え方及び保健指導の在り方						
第3回	保健指導の実際	歯科保健指導の実際を体験する						
第4回	保健管理～学校感染症への対応	学校感染症の種類と平時・発生時・事後の対応						
第5回	保健管理～精神保健	精神保健の意義、ストレスの概念、学校保健における精神・心理的疾患、そのほかの精神・心理的問題						
第6回	保健教育～望ましい生活習慣づくり	望ましい生活習慣づくりのための保健教育の意義と実際						
第7回	研究授業に向けた教材研究	学校保健Ⅰで作成した指導案を基に、細案・教材を作成						
第8回	授業発表と評価	構想した授業を発表しあい、ねらいに沿った展開となっているかを討議する						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	「新・学校保健」杉浦守邦・野村和雄（東山書房）							
参考書	「学校保健マニュアル」改訂8版 衛藤隆、岡田加奈子（南山堂）							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題意識をもち取り組む積極的態度、指導案、教材、そのほか提出物、グループへの貢献、テスト							
授業時間外の学習	各自が積極的に自学自習に励むことを期待しています。配布資料や指定された文献等により予習復習を行ってください							
履修のポイント	児童生徒の健康課題や教育に関する時事問題にクリティカルシンキング。							
オフィス・アワー	アポイントを取ること。							

平成26年度 シラバス

科目名	感染管理		担当者	林 かおり	学科	看護学科	開講期	前期	
区分	専門科目	必修	単位	1単位		学年	4学年		
			(時間)	(15時間)			曜日		
授業の概要	1. 医療関連感染とは何か、現代の医療の中での状況及び予防対策について学習をする。 2. 医療関連感染予防の具体的な方法について学び、実践できるようにする。 3. 感染管理プログラム・教育及び研究成果から、看護師の担う感染防御の役割の理解を深める。								
学習目的	1. 看護師として感染管理を行う役割について理解をする。 2. 実際の医療感染対策の方法について理解をし、実践的知識を習得する。								
到達目標	1. 感染管理・感染看護の概念と近年の動向について学ぶ。 2. 医療施設及び地域での医療活動における感染予防の方法について学習をする。 3. 医療者自身の感染予防対策の具体的な方法について実践できるように学習をする。 4. 感染症患者または易感染患者に対する看護の具体的な方法とその根拠について学ぶ。								
授業計画									
回	主題	授業内容					備考		
第1回	感染管理と感染看護の概念/医療関連感染サーベイランス	感染管理・感染看護の役割。感染管理に関する現状と研究成果。感染症に関わる倫理的問題。医療関連感染サーベイランスの定義。							
第2回	医療施設における感染症の発生要因及び感染対策の基本	感染の成立と予防に関する考え方。医療関連感染の定義。スタンダードプレコーションの実際と方法。							
第3回	医療器具及び医療処置の伴う感染予防	滅菌操作時の感染予防。							
第4回	医療施設におけるファシリティ・マネジメント	感染性廃棄物の取り扱い。洗浄・消毒・滅菌。							
第5回	職業別感染防止対策	針刺し・切創・汚染。医療施設で問題となる流行性感染症とその							
第6回	医療機関での部署別感染対策	様々な医療施設における感染対策（手術室、ICU、NICU、透析室、リハビリ室、レントゲン文門、高齢者施設、在宅等）。							
第7回	感染症患者の治療と看護①	感染症別対策。							
第8回	感染症患者の治療と看護②	感染症別対策。							
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	大野義一郎『感染対策マニュアル』								
参考書	「わかりやすい微生物・感染症」ヌーベルヒロカワ、坂本史衣「基礎から学ぶ医療関連感染対策-標準予防策からサーベイランスまで-」								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80%、課題20%、授業参加度								
授業時間外の学習	一年次の「感染と防御」を見直すこと、微生物の名称と代表的な疾患をまとめることで理解しやすくなります。								
履修のポイント	既習学習（感染と防御）をふまえ、主体的・積極的に参加をすること。								
オフィス・アワー	臨地実習以外で在室時に対応をします。								

平成26年度 シラバス

科目名	看護行政と管理		担当者	小此木久美子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	国民の健康を守り看護の質の向上をめざし行われている看護行政や看護に関する制度について理解する。看護の対象者に、より良い看護サービスを提供するとともに、看護職員が意欲的な活動ができるよう人的・物的・経済的資源を効率よく運営できる看護管理の重要性や目的・機能・方法を理解する。							
学習目的	看護サービスのマネジメントは看護管理によって行われる一連の過程の活動であることを理解し、看護が時代の要請に対し、どのように応え何をすべきかを理解する。併せて看護行政の展開の基本を学ぶ。							
到達目標	1. 看護に関する制度と政策を考える視点を学ぶ 2. 看護管理学とはどのようなことであるかを理解する 3. 看護ケアのマネジメントについて理解ができる 4. 看護を取り巻く法律や諸制度に対して理解をする							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	看護管理とはどのようなことか	看護におけるマネジメントについてその変遷・実践の場について						
第2回	看護をめぐる制度と政策①	看護サービス看護職に対する法制度と看護職に求められ事について						
第3回	看護をめぐる制度と政策②	看護サービス看護職と経済のしくみ、看護職員人員配置基準について						
第4回	看護サービスの管理①	看護管理及び管理システムと組織						
第5回	看護サービスの管理②	リーダーシップと人間資源の管理及び多職種連携のあり方						
第6回	医療安全と医療の質の保障	最近の医療事故から学びその要因から安全管理体制の整備						
第7回	健康危機の管理	健康管理体制と平常時の活動・予防策・災害発生時の保健活動等						
第8回	看護行政の実際について	地方自治体としての看護行政の実際や看護職の行政処分と再教育						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論7							
参考書	保健師助産師看護法 保健師業務要覧(日本看護協会)							
成績評価	単位認定 60点以上 定期試験60% 課題レポート・ノート40%							
授業時間外の学習	看護職を取り巻く関連法規を事前学習とする。							
履修のポイント	日々他の学科の振り返りから看護管理能力を体得できるように幅広く考えられるよう努力すること							
オフィス・アワー	研究室在室時は対応します							

平成26年度 シラバス

科目名	災害看護論		担当者	加固定子	学科	看護学科	開講期	後期	
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日		
			(時間)	(15時間)			時間		
授業の概要	自然・人為を問わず、国内・外を問わず、災害は人々の生命と健康を危機に陥れる。人々の生命と健康を守る看護が災害時に果たすべき役割を考えると同時に、災害発生時、急性期～復興期までの段階において必要な看護の理論と技術を教授する。								
学習目的	災害時の看護職の役割を理解し、災害医療や看護の基礎を学ぶ								
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義および災害看護の概要を理解する。 2. 災害サイクルにおける保健医療ニーズと看護の場に応じた看護を理解する。 3. 災害時に必要な援助技術の基礎を習得する。 								
授業計画									
回	主題	授業内容					備考		
第1回	災害看護の概要	歴史、定義、災害の種類、災害サイクル 「VTR視聴：災害と看護ニーズ」25分 「災害とわたし」これまでの体験と今後の学習目標について					講義 VTR	自分の体験を振り返る	
第2回	災害看護の特徴	災害医療の特徴 災害関連法律 災害拠点病院とは					講義		
第3回	災害サイクルと看護活動(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・救命・救出と災害時トリアージ ・災害時救急医療と看護の概要 ・ライフラインの復旧までの対応と災害活動のロジスティクス 					講義		
第4回	災害サイクルと看護活動(2)	災害急性期期の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・被災地の病院、避難所、または救護所での医療と看護 ・ボランティアセンターの開設と看護 災害中長期(復旧・復興期)の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅と巡回看護(アウトリーチ)のポイント 					講義 VTR		
第5回	災害が人々の健康や生活に及ぼす影響	災害の種類と健康問題 活動の場における看護 <ul style="list-style-type: none"> ・救護所に備える医療体制と備品 ・避難所における巡回医療・看護のポイント 					講義		
第6回	災害時の要支援者の把握と援助	子ども、妊産婦、高齢者など 在宅ケアを受けている人々 障がいのある人々					講義		
第7回	災害とこころのケア	災害後のこころのケア 災害による死とグループケア 救援者のストレス対策					講義		
第8回	災害への備え	病院での災害への備え <ul style="list-style-type: none"> ・役割認識、防災マニュアルの活用、定期的シュミレーション等 地域における災害への備え <ul style="list-style-type: none"> ・防災マップの活用(要支援者リスト、避難広場、避難所、避難経路等) 					講義 VTR		
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	小原真理子：いのちとこころを救う災害看護、学習研究社、2008。（¥1,890）								
参考書	辺見弘監修：新体系看護学全書 看護の統合と実践2 災害看護 第2版、メヂカルフレンド社、2013年（2,205円） 黒田裕子・酒井明子：災害看護【ナースング・グラフィカEX⑤】、中山書店、2011。（¥3,200）								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験（50％）、課題レポート：私が目指す災害看護の課題（50％）								
履修のポイント	災害は思わぬ時にやってくる。看護職者は被災者にも災害医療提供者にもなりうる存在であり、医療者の中でも最も数が多い職種であることを踏まえ、防災から救護、被災地での看護活動までの知識と技術の基礎を学ぶ科目である。								
オフィス・アワー	水曜日16：40～								

平成26年度 シラバス

科目名	小児救急看護論		担当者	加固正子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	小児救急看護の必要性、現状、倫理、救命救急士を含めたチーム医療について概説し、小児のプライマリー・ケアに必要なフィジカル・アセスメント、トリアージ、および応急処置について教授する。							
学習目的	小児救急看護の必要性、現状、倫理、救命救急士を含めたチーム医療について理解し、小児のプライマリー・ケアに必要なフィジカル・アセスメント、トリアージ、および応急処置の基礎について学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児から学童まで小児救急の特徴について説明することができる ・小児救急における看護師および養護教諭の役割・知識・技術の要点を説明できる ・小児の救急時に行なうトリアージの基礎知識について説明できる ・小児の急性症状に対するフィジカルアセスメントと応急処置の基礎的知識・技術を説明できる 							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	小児救急看護の必要性と現状		<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の小児救急の現状—乳幼児および学童 ・保護者の望む小児救急体制の充実とは 					
第2回	救急医療システムの理解		<ul style="list-style-type: none"> ・小児の時間外受診システムの理解 ・救急車を呼ぶ時の要点 ・救急時の対応ABC! 					
第3回	乳幼児の主な急性期症状とアセスメント		発熱、下痢と脱水、腹痛、頭部外傷、けいれん、誤嚥、溺水、火傷など					
第4回	学童期の主な急性期症状とアセスメント		アセスメントとトリアージ(頭を強く打った、胸が痛い、背中が痛い、頭が痛い、お腹が痛いなど)					
第5回	小児救急外来トリアージの方法		<ul style="list-style-type: none"> ・外来での小児救急トリアージ例(入院にいたる例) 1)発熱およびその他の症状 乳幼児/学童 2)腹痛およびその他の症状 乳幼児/学童 					
第6回	小児救急電話相談および電話トリアージ		<ul style="list-style-type: none"> ・小児科外来または救急外来で乳幼児の保護者から急病の電話相談があったら… 1)ミルクを飲ませても泣いていて眠らない乳児 2)咳と鼻水があり、食事があまり食べられない幼児 					
第7回	子どもの急病と応急処置(1)		骨折と捻挫(四肢、鎖骨)、鼻出血、日焼け、酸・アルカリによる火傷					
第8回	子どもの急病と応急処置(2)		ショック症状、手足のしびれ<過換気症候群>、頭を強く打った、胸を強く打った、腹部を強く打った					
教科書	玉川進(監修)：先生!大変です!救急車を呼びますか?緊急度の判断基準とその対応 第2版、東山書房、2010年							
参考書	田中哲郎：小児救急医療の現状と展望、診断と治療社、2004。(¥3,000)							
成績評価	単位認定	60	点以上	課題レポート40%(小児の救急事例と看護)、終了テスト60%				
授業時間外の学習	養護教諭課程の学生は教育実習を想定し、それ以外の学生は自分の興味関心のある小児救急の課題や技術について自ら学ぶつもりで予習復習して参加してください。							
履修のポイント	初めて育児をする保護者が強い不安に襲われやすい症状、小中学校での応急処置を取り上げる。学生自身が相談にのったり、支援したりするつもりで学んでください。							
オフィス・アワー	在室の時はいつでもどうぞ。							

平成26年度 シラバス

科目名	国際看護論		担当者	加園正子	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	国際協力の中で看護分野の協力の重要性について理解する。異なる国、異なる文化の下での看護の現状を知り、在日外国人に対応できるとともに、対外的に国際看護協力活動に必要とされる基本的知識・英語力ならびにコミュニケーション技術・態度を学ぶ。							
学習目的	対象となる国・地域・民族の歴史、文化、政治、経済、社会システムなどを総合的に理解し、人々の健康と看護の向上を目指す視点やそのための看護活動について学ぶ。							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護の概念について理解する ・国際社会の現状の特徴、国際看護活動に求められている事柄について知る ・諸外国の看護教育制度や医療システムについて知る ・異文化理解と看護実践例について学ぶ 							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	今、なぜ国際看護を学ぶのか 国際看護活動の支援を必要とする対象		<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護の概念 ・国際社会の現状と国際看護活動の課題 ・国際看護活動が扱う範囲 ・海外における看護活動「国レベルの援助」から「市町村レベルの援助」へ 				講義	
第2回	英米の看護教育の特徴と国際看護の先見性		<ul style="list-style-type: none"> ・看護の普遍性と英米の看護教育の特徴の比較 ・海外における看護活動例 ・国際協力の焦点の移行と看護活動 ・歴史に残る国際看護活動例 				講義	
第3回	国際看護活動の支援を必要とする対象		<ul style="list-style-type: none"> ・在日外国人への看護活動 ・群馬県内の外国人登録者数と保健医療問題 ・国際看護活動支援を必要としている国々(アフリカの国々を知る) 				講義	
第4回	国際看護活動を推進する人と機関		<ul style="list-style-type: none"> ・国際機関のいろいろ -国際協力隊とポリオの根絶 ・保健医療分野における地域別援助実績例 ・NGOの国際協力活動例、ODA政府開発援助とODAの担い手 				講義	
第5回	国際看護で必要とされる知識・技術・能力 国際看護活動の展開プロセス		<ul style="list-style-type: none"> ・異文化コミュニケーションと異文化適応能力 ・大規模プロジェクトにおける手法 -マダガスカルからの報告 				講義	
第6回	文化的ケア(1)		<ul style="list-style-type: none"> ・文化的存在としての人間の理解 ・文化を考慮した看護 ・異文化理解と自文化理解 ・文化を超えた看護 				講義	
第7回	文化的ケア(2)		<ul style="list-style-type: none"> 事例1: 宗教や文化による看護ケアの違い 事例2: 医療制度の違う外国人旅行者・滞在者への看護 				講義	
第8回	世界のためにわたしができること		<ul style="list-style-type: none"> ・MDGsワークショップ -1日100円位で生活する人の割合が高い国々と必要な援助内容 ・資料の集め方とまとめ方(レポート提出について) 				講義	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	田村やよい(編)：新体系看護学全書 国際看護学、メヂカルフレンド社、2009. 2, 205円							
参考書	講義の中で適宜紹介							
成績評価	単位認定 60 点以上 終了テスト(60%)、関心をもった国や地域の健康問題についてのレポート(40%)							
履修のポイント	異文化コミュニケーション、国際保健論などの科目と関連させて学習していただきたい。国や文化の異なる人々に対する理解は、国際的な看護活動を行う上で欠かせないので、多様な文化や生活習慣に対して関心を深めていくことが重要である。							
オフィス・アワー	水曜日16:40～							

平成26年度 シラバス

科目名	看護管理システム論		担当者	池田貴子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	質の高い看護の提供は、ひとりの看護師だけで行われているのではなく、看護職同士や他職種との連携・協働などによって成り立っている。より良い看護が提供されるために必要な人的資源（ヒト）・物的資源（モノ）・財的資源（カネ）の維持・活用などについての看護管理システムを学ぶ。							
学習目的	看護管理の目的、ヘルスケアシステムとしての看護を理解する。 チーム医療における看護職の果たす役割やマネジメントに必要な知識や技術を学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の基本概念を理解する。 2. 看護ケアにおけるマネジメントを理解する。 3. 看護サービスのマネジメントを学ぶ。 4. 看護管理に必要な知識体系とその概要を学ぶ。 5. 情報倫理について理解する。 6. チーム医療における看護職の役割について考えることができる。 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	看護管理の目的	看護管理の目的,看護管理プロセス,看護の組織、看護活動を支えるための組織					講義	
第2回	ケアおよび看護サービスにおけるマネジメント	組織論、看護の提供体制、キャリア開発と継続教育					講義	
第3回	組織とマネジメント	マネジメントのプロセスと必要な知識と技術					講義	
第4回	看護管理におけるリーダーシップ	リーダーシップ、フォロワーシップ、アサーティブ行動					講義・演習	
第5回	チーム医療と看護の役割	他職種との連携と協働					講義・演習	
第6回	演習	チーム医療における看護職の活動について					演習	
第7回							講義・演習	
第8回	発表						講義・演習	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
教科書	上泉和子著者代表:系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 看護管理 (第9版), 医学書院, 2011.							
参考書	矢野正子編:新体系看護学全書別巻14 看護管理 看護研究 看護制度, メディカルフレンド社. 井部俊子, 中西睦子監修:看護管理学習テキスト「看護管理概説」第1巻, 日本看護協会出版会. 日本看護歴史学会編:日本の看護120年 歴史をつくるあなたへ, 日本看護協会出版会. 野崎和義, 柳井圭子著:看護のための法学 自律学・主体的な看護をめざして, ミネルヴァ書房. 村島さい子他編:ナースングラフィカ®基礎看護学看護管理, メディカ出版. 見藤隆子他著:看護職者のための政策過程入門, 日本看護協会出版会. 叶谷由佳, 木村憲洋編:イラスト図解看護のしくみ, 日本実業出版社, 2007.							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 50%, 授業および演習態度 10%, 学生評価 20%, レポート 20%							
授業時間外の学習	演習は、グループでテーマを決めて発表します。授業以外の作業が必要です。自分と他の人との協同作業が必要で す。							
履修の ポイント	演習では活発なディスカッションができるよう実習での経験や文献などを活用してください。							
オフィス ・アワー	ikedata@kiryu-u.ac.jp							

平成26年度 シラバス

科目名	看護セミナー		担当者	加固正子他 看護系教員	学科	看護学科	開講期	通年	
	専門科目	必修							単位
区分			単位 (時間)		3単位 (135時間)	学年	4学年	曜日 時間	
授業の概要	学生が関心を持った看護領域における看護実践課題を見出し、課題に対応した臨地実習を計画し、研究的視点で実践する。学習課題に関する疑問や問題を解決する過程を通して、より質の高い看護を提供するために、継続して学習を深める意義を確認する。								
学習目的	これまでの学習をふまえ、1つの看護領域を選択し、対象の持つ問題を改善・解決するために文献を活用した臨地実習を立案し、病院・地域などにおいてその実践を試みる。これらの一連の過程について論文記述の体裁を整えた報告書としてまとめる。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学習に基づき、看護実践を展開する上での、改善・解決したい課題が明確になる 2. その課題解決に有効な文献を検索し、これまでの成果を活用できるよう検討できる 3. その課題にあった対象を選定し、文献検討結果を活用して看護実践の計画を立案できる 4. 看護実践の計画に基づき実施できる 5. 看護実践の結果について考察する 6. 看護実践結果を論述する 								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション	全体説明、各教員からのアピール							
第2回	第2回オリエンテーション 文献検討の方法	文献検討報告書の書き方							
第3回	文献検討の方法	文献検討報告書の提出と課題テーマの絞り方							
第4回	グループ配置 各教員とのゼミ	看護セミナー要項に基づき、選択する領域の看護について指導教員のもとで臨地実習を行う。 実習経過は「看護セミナー報告書」としてまとめ提出する。							
第5回	実践的看護課題の選択								
～	〃	詳細は「看護セミナー実習要項」を参照							
第13回	実習調整								
～	〃								
第17回	実習計画・臨地実習								
～	〃								
第41回	実習のまとめ	看護セミナー報告書作成							
第42回	〃	看護セミナー報告書作成							
第43回	〃	看護セミナー報告書作成							
第44回	〃	看護セミナー報告書作成							
第45回	〃	看護セミナー報告書作成と提出							
教科書	実習中、適宜用いる								
参考書	実習中、適宜用いる								
成績評価	単位認定 60 点以上 単位認定には実習時間の5分の4出席を必要とする。 評価は、実習内容および提出物を総合的に評価する								
授業時間外の学習	これまでの学習成果を振り返り、自分に残された看護実践課題について思考すること。その課題に関する複数の研究論文を熟読する。実習計画・臨地実習・報告書作成に関して、指導教員に課された自己学習課題に取り組むこと。								
履修のポイント	4年間の看護の学びを統合し、1つの看護実践課題について主体的に学習する。								
オフィス・アワー	初回に、グループ担当教員と調整すること。								

平成26年度 シラバス

科目名	道徳教育及び特別活動の研究		担当者	田口和人	学科	看護・栄養	開講期	前期
区分	教職科目	自由	単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年	4年次	曜日	
	教職科目	(必修)					時限	
授業の概要	教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解することを第一に行います。その上で、道徳教育と特別活動を一応区分したうえで、それぞれについて「グループ討議」を行います。またビデオ等を見て学校現場についての理解を深めます。							
学習目的	教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解すると同時に、今日の子どもたちが置かれた状況を考慮した場合に、どのような道徳教育・特別活動が求められるのかについて考えることを学習の目的とします。							
到達目標	日本の道徳教育は1945年を境とする戦前・戦後では大きく変わりました。それは特別活動にも同様のことがいえます。何がどのように変わったのかについて理解することを一つの目標とします。その上で、今日の子どもたちが抱える様々な教育問題を想定しながら、求められる道徳教育・特別活動はどのようなものであるのかについて、自分自身で考えることを二つ目の目標とします。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	教育課程における道徳教育／特別活動	道徳教育とは、特別活動とは（教育課程についての説明）。楽曲を聴いて子どもたちの心理を想像する。						
第2回	学校教育について	教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について学習する。						
第3回	学習指導要領と道徳教育／特別活動	学習指導要領と道徳教育・特別活動について学習する。また、戦前戦後の道徳教育・特別活動について学習する。						
第4回	学校ってどんなところ？	今日の学校教育の現状について視聴覚教材を用いて学習する。						
第5回	いじめ問題	克服しがたい問題としての子どもたちの周りに存在する「いじめ・いじめ自殺」について視聴覚教材を用いて学習する。						
第6回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議①	テーマを設定してグループごとに討議を行う。						
第7回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議②	グループ討議した内容を整理して、発表する。						
第8回	まとめ	道徳教育と特別活動についてのまとめを行う。						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	※適宜、資料を配布します。							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 試験100%（持ち込み不可）							
授業時間外の学習	新聞等を通じて、教育に関する情報（例えば、いじめ問題）に目を通すようにしてください。							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	教育相談論		担当者	占部債一	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期	
区分	教職科目	自由	単位	2単位	学年	4学年	曜日		
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限		
授業の概要	1, 2回目の授業で、教育相談の必要性、定義、内容の包括性などを理解する。次に3回目の授業にて、学校組織上の位置づけ等を理解する。さらに4, 5回目の授業で、子ども理解を、成長段階、対人関係、教育段階を踏まえて深め、現代の子どもの変化と社会・文化環境の変化の概要を把握する。これらを基礎として、6～11回目の授業を通して教育相談に必要な知識と方法を学んでいく。12～14回目では、代表的な事例を通して教育相談の実際を体験・考察する。								
学習目的	教育相談に必要な知識を理解し、実際に実践する際の基礎を習得する。								
到達目標	①教育相談の必要性、定義、学校組織上の位置づけ等を理解する。 ②現代の子どもの成長段階や教育問題、社会的環境の変化について理解する。 ③教育相談を行うに必要な方法・内容を理解する。 ④事例を通して、教育相談を実践する基礎を習得する。								
授業計画									
回	主題	授業内容					備考		
第1回	教育相談の必要性	児童生徒の抱える問題と教育相談の必要性							
第2回	教育相談の定義と内容	教育相談の定義、内容の包括性、機能の多様性							
第3回	教育相談と学校組織	学校組織における教育相談担当の分掌的位置づけと役割、全教員が学校生活全般を通じて行う教育相談、スクールカウンセラー等との連携							
第4回	教育相談と子ども理解(1)	成長段階と心理、身体、異性、対人関係。教育と到達度、自己評価、志向性。社会性の習得とアイデンティティ、自己実現							
第5回	教育相談と子ども理解(2)	子どもを取り囲む環境の変化。ポストモダン社会とメタ物語の喪失、私事化と公共性の喪失。グローバルネット社会							
第6回	教育相談方法(1)	教育相談への促しと気づき ①援助要請の重要性、②対応態勢(傾聴、承認、受容、当事者性理解)							
第7回	教育相談方法(2)	教育相談の方法 ①心理的感受と援助(肯定的自己観、内的統制と外的統制、自己注視等) ②援助思考(垂直保障、水平保障、問題解決保障)							
第8回	教育相談方法(3)	学習支援(動機付け、能力観の変換、発達の最近接領域理論、自己調整学習等)							
第9回	教育相談方法(4)	対人関係調整(傷つき感受性の緩和、自己愛と他者理解、文化的分化、仲間づくりと社会的スキル)							
第10回	教育相談方法(5)	志向と自己実現(時間軸と意味軸、内的興味と外的興味、生きがいと生活、夢・目標と方法等)							
第11回	教育相談方法(6)	連携 ①児童生、②教師間、③保護者、④専門機関							
第12回	教育相談の実際(1)	学習意欲の低下と成績不振(学ぶ意味の喪失、教育的呪縛、学習性無力感、知の受け身者と知の構成者、協働の学び)							
第13回	教育相談の実際(2)	対人関係といじめ(関係の確認、被害者の保護、加害者の特定と対応、生徒指導・学級担任等との連携、他生徒への対応、相談の継続等)							
第14回	教育相談の実際(3)	不登校と無気力(理解と受容、背景要因の確認、症状の段階確認、カウンセラー、学級担任等との連携 援助の形態と方法の模索等)							
第15回	まとめ	承認者・支援者の重要性 ①可能性の展開、②自己認知と社会性の拡大、③肯定的意欲の賦活							
教科書	使用せず								
参考書	河村 茂雄著 『教育相談の理論と実際—よりよい教育実践をめざして』 図書文化社								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 80%、小レポート10%、課題10%で評価する。								
授業時間外の学習									
履修のポイント	教職に必要な資質を深め、向上させようとする意欲と努力が大切です。								
オフィス・アワー	アポイントを取ってください。								

平成26年度 シラバス

科目名	教職実践演習(養護教諭)		担当者	青柳千春・占部慎一	学科	看護学科	開講期	後期	
区分	専門科目	自由	単位	2単位		4学年	曜日		
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限		
授業の概要	<p>第1回は、教職担当教員によりオリエンテーションを行う。第2回は、養護教育実習を振り返りながら、教師という仕事について考える。3回から4回は子どもの抱える成長・心の問題、5回～6回は子どもの抱える学びに対する問題、7回は対人関係の問題に対する援助・指導の実際をそれぞれ理論・理解・対応(ブレインストーミング・ロールプレイング)・振り返りの順序で行う。第8回～第14回では、養護実習で経験した学校保健活動、学習指導案作りや研究授業の評価やこれまでの学びをすべて活用し、学校現場が抱える健康課題に対して、養護教諭としてどのように解決を図るのかについて協議をしていく。第15回は、履修カルテを用いて教職課程の総合的な確認を行う。</p>								
学習目的	<p>履修カルテにより、個人別の履修状況や教師になるための実践的指導力等を把握しながら、演習を通して受講者が養護教諭になるために必要な能力を培うことを目的とする。また、組織の一員としての自覚や地域社会とのつながりを意識しながら、社会性や人間関係能力を育成する。</p>								
到達目標	<p>①履修カルテにより、履修状況を確認する。 ②養護教諭になるために必要な能力を、身につける。 ③学校という組織の一員として自覚するとともに、教師として豊かな感性や人間関係を高める。</p>								
授業計画									
回	主題	授業内容					備考		
第1回	オリエンテーション	教職実践演習の内容とスケジュールの確認。履修カルテの確認					教職担当教員		
第2回	学校教育・教師の仕事	教育実習を踏まえて、教師の仕事について学び、考える。					養護教諭担当教員 及び教職担当教員		
第3回	子どもの抱える成長・心の問題(1)	子ども期、思春期、青年期(前期)の発達と各段階における問題の援助・指導の実際について学び、活用法を検討する。					教職担当教員		
第4回	子どもの抱える成長・心の問題(2)	問題の援助・指導法をブレインストーミングで案出し、ロールプレイにより実践的な対応能力を身につける。					教職担当教員		
第5回	子どもの抱える学びの問題(1)	学習意欲の低下、過剰適応、発達障がい等についての援助・指導について学び、活用法を検討する。					教職担当教員		
第6回	子どもの抱える学びの問題(2)	援助・指導法をブレインストーミングで案出し、ロールプレイにより実践的な対応能力を身につける。					教職担当教員		
第7回	子どもの抱える対人関係の問題	いじめの対応と援助・指導の実際を学び、他教員、カウンセラー、保護者などとの連携的対応を検討する。					教職担当教員		
第8回	学校保健における実践演習	模擬保健指導～養護実習における研究授業の成果と課題を生かした保健指導・保健学習の授業構想(グループ演習)					養護教諭担当教員		
第9回									
第10回		模擬保健指導～指導案の発表と指導法の検討(発表)(グループワーク)					養護教諭担当教員		
第11回									
第12回		事例検討～子どもへの健康相談(事例検討、ロールプレイから考える)					養護教諭担当教員		
第13回		事例検討～保健室での子どもへの対応(救急処置場面、ロールプレイから考える)					養護教諭担当教員		
第14回		目指す養護教諭像(協議「教師、子ども、保護者が期待する養護教諭の姿とは」)					養護教諭担当教員		
第15回	まとめ	履修カルテを用いて、教職課程の総合的な確認を行う。					養護教諭担当教員 及び教職担当教員		
教科書	プリントをその都度配布する。								
参考書	占部慎一著「子どもたちの逸脱・非行」学文社 「新・学校保健」東山書房/「養護教諭のための教育実習マニュアル(第4版)」尾花・栗田・西川路著 少年写真新聞社								
成績評価	単位認定 60点以上 小レポート、総括レポートの提出状況、演習・発表内容を総合して評価								
授業時間外の学習									
履修のポイント	各自が自分の考えを積極的に発表し、共に学び合う場にしてください。								
オフィス・アワー	アポイントをとってください。								

平成26年度 シラバス

科目名	養護実習		担当者	青柳 千春 鈴木 裕子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	教職科目	必修	単位	4単位		学年	4年	曜日
			(時間)	120時間				時限
授業の概要	教育実習生として、これまで大学で学んだ養護教諭の職務に関する知識や技術を具体的な実務を通して体験する。また、児童生徒の実態や課題を把握しどのように学校保健活動へ反映していくのかを理解したり、養護教諭の専門的な立場から児童生徒に対する適切な指導や助言の在り方等を学んだりする。さらに、学校における教育活動全般について理解するとともに、学校組織の一員としての責任と自覚、専門職としての向上意欲、使命感の醸成を図る。							
学習目的	①大学で学んだ知識・理論・技術について、実践を通して確認する。②児童生徒の実態と学校、地域の現状を知り、学校教育目標、学校保健目標の達成に向けて行われている教育活動を理解する。③養護教諭として必要とされる資質・能力についての学習課題を見出す。							
到達目標	養護実習を通して、 ①児童生徒理解を深めることができる ②保健管理・保健教育・組織活動の実際に触れ、知識と実践を結びつけてより深く理解することができる ③養護教諭と他教職員、保護者や地域等との連携や協働の実際を知ることができる							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	第1週		情報収集と実習目標に向けた取組					
第2回			・実習計画の細案の打ち合わせ（講義・観察・参加・実習別）					
第3回			・健康診断の準備、実施事後措置等					
第4回			・研究授業までの計画					
第5回								
第6回	第2週		積極的に課題意識をもって実践					
第7回								
第8回	第3週		実習の成果を点検					
第9回			・各種の指導や実践の評価をまとめる					
第10回			・得られた成果を確認する					
第11回			・実習をまとめ、大学へ提出する報告書を作成する					
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	養護教諭必携シリーズNo4「養護実習ハンドブック」大谷尚子 中桐佐智子 編著（東山書房）							
参考書	「新養護概説（第7版）」采女智津江 少年写真新聞社							
成績評価	単位認定 60 点以上 実習校での評価、実習記録等をもとに大学教職課程委員会と協議し総合判定とする。再実習は実施し							
授業時間外の学習	実習期間中、毎日実習内容の記録と振り返りを行い、自身の学びと課題を確認すること。							
履修のポイント	実習校での積極的な体験及び反省評価を繰り返すことで成果が得られる。そのための事前準備が重要になる。							
オフィス・アワー	実習中の相談については、主に電話又はメール、必要に応じて面談する。実習校での問題、トラブルは必ず報告・相談・連絡を早期にとること。							

平成26年度 シラバス

科目名	教育実習事前事後指導		担当者	青柳 千春 鈴木 裕子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	教職科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	教育実習(養護実習)の意義と学校現場における学び方、教育実習生の責任と立場を理解する。また習得した養護教諭の職務に関する知識や技術を実践できるようにする。実習期間中の観察の視点や記録の仕方を理解し、児童生徒の実態、学校保健活動の在り方、養護教諭の対応等の実際を学ぶ。さらに、学校における教育活動全般について理解するとともに、学校組織の一員としての責任を自覚し、専門職として児童生徒・保護者・教職員の期待や信頼にこたえうる判断と態度、行動の在り方を学ぶ。							
学習目的	①児童生徒等の実態、学校・地域の現状を知り、教育目標、学校保健目標の達成のために、どのような保健活動が行われているか、大学での学びを確認する。②学校教育計画、校務分掌、学校運営、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等と保健管理、保健教育、組織活動の実際を具体的に実習できるようにする。③養護教諭として必要とされる資質・能力の課題を発見する。							
到達目標	①児童生徒等の健康課題の背景要因を考えることができる。②学校教育計画、校務分掌、学校運営、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等と学校保健計画及び保健室経営との関連を理解することで、実習校の特色や養護教諭の行う保健管理、保健教育、組織活動の例示ができる。③「児童生徒の養護をつかさどる」活動に対する児童生徒・保護者・教職員のニーズを具体的に表現することができる。							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	教育実習・事前指導 オリエンテーション	学び方、授業の概要、学習目的 実習の意義、実習に臨む姿勢、実習校との事前打ち合わせの内容					青柳・鈴木	
第2回	養護実習の内容と方法	目標と実習の内容及び記録の書き方と評価					青柳・鈴木	
第3回	定期健康診断と事後措置	実技・演習：歯科検診、聴力検査、歯垢染め出し及び歯科保健指導 観察・参観・実習の進め方					青柳・鈴木	
第4回	感染症と学校環境衛生	実技・演習：吐物処理・水質検査・照度検査・空気検査 観察・参観・実習の進め方					鈴木・青柳	
第5回	学校救急体制および 学校救急処置の演習	確かなアセスメントと救急処置・対応					鈴木・青柳	
第6回								
第7回	養護実習報告会	養護実習の成果と課題について各自6分でプレゼンテーション					青柳・鈴木	
第8回	養護実習の自己評価	養護実習の成果を評価、総括					青柳・鈴木	
教科書	養護教諭必携シリーズNo4「養護実習ハンドブック」大谷尚子 中桐佐智子 編著(東山書房)							
参考書	「新養護概説(第7版)」采女智津江 少年写真新聞社							
成績評価	単位認定 60 点以上 事前・事後指導の学習態度、実習校における評価、実習報告会の成果を総合評価							
授業時間外の学習	各自が課題をもって、積極的に予習や復習に励むこと。							
履修のポイント	関心・意欲・課題意識をもち、積極的に学び養護実習に臨めるようにする。							
オフィス・アワー	アポイントを取ること							